

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書神学特殊研究 a	魯 恩碩
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書形成の歴史と聖書解釈の歴史に対する理解を深めるための特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> この学期は、講師の拙著である『From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period』を読みながら旧約聖書形成史に関する最近の研究動向を把握した後、アレクサンドリア学派のアレゴリカルな解釈、アンティオキア学派のディボロジカルな解釈、アウグスティヌスやトマス・アキナスなどによる四重の解釈、近代以降の歴史批評学的解釈などの様々な聖書解釈の方法を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 緒論的問題 3. Qumran 共同体の敬虔性 4. 旧約聖書における審判思想の歴史的発展過程 5. 紀元前7世紀から6世紀までのユダヤ共同体における社会経済的変化の過程 6. 紀元前4世紀のYehudの政治状況と五書の正典化の関係 7. 「契約の書」の時代背景 8. Origenの聖書解釈 9. Diodoreの聖書解釈 10. Augustineの聖書解釈 11. LutherとCalvinの聖書解釈 12. Spinozaの聖書解釈 13. Wellhausenの聖書解釈 14. 現代聖書学の聖書解釈 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト> Johannes Unsok Ro 『From Judah to Judaea: Socio-Economic Structures and Processes in the Persian Period』(Sheffield Phoenix Press, 2013), 学生各自で購入する。</p>	
<p><参考書> 授業の中で教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)> ディスカッションなどによる授業への貢献が3割、プレゼンテーションが3割、期末レポート(6000字)が4割。期末レポートは、最終授業日に提出すること。レポートの採点基準は、論理性、独創性、正確性を重視する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書文学特殊研究 b	小友 聡
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 旧約神学、釈義、歴史に関する諸問題から、一つの主題を掲げて深く掘り下げる特殊研究のクラスである。</p>	
<p><授業の概要> 雅歌に関する様々な文献を読み、今日、雅歌をどのように理解すべきかを多角的に考える。演習形式で行う。</p>	
<p><履修条件> ヘブライ語を履修していない旧約専攻外の学生にも開かれている。</p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. 勝村弘也「雅歌」『岩波版旧約聖書』 3. 水野隆一「雅歌」『新共同訳・旧約聖書略解』 4. ロバート・W. ジェンソン（水野訳）『雅歌』（現代聖書注解） 5. オリゲネス（小高訳）『雅歌注解・講話』、創文社 6. ゴルヴィッツァー（佐々木訳）『愛の賛歌』 7. P. トリプル『神と人間性の修辞学』、ヨルダン社（pp. 209-240） 8. 佐々木勝彦『愛は死のように強く—雅歌の宇宙』 9. 並木浩一「旧約聖書におけるパストラル」、『パストラル—牧歌の源流と展開』 10. 永井晋「雅歌の形而上学—生命の現象学」『現代思想（レヴィナス）』2012年3月特集号 11. ダニエル・グロスバーク「雅歌における自然・人間・愛」、『雅歌』（インタープリテーション79号） 12. トッド・リナファルト「愛の数式」、前掲書 13. ドブス・オルソップ「美の喜びと雅歌4章1-7節」、前掲書 14. シュナーブル・シュワイツァー「雅歌—牧会ケアのための隠喩」、前掲書 15. 並木浩一先生の特別講義 	
<p><準備学習等の指示> 毎回発表していただき、それに基づいて全員で討論する。</p>	
<p><テキスト> 上記テキストを扱う。入手困難なものはコピーを使う。</p>	
<p><参考書> その都度、提示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表と授業への積極性、また学期末の提出レポート（6000字）によって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典特殊研究 a	本間 敏雄
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書原典である写本とマソラ本文、特にマソラの専門的知識を修得し、ユダヤ教正典（Miqra）としての本文と諸現象の理解を深め、テキストの神学を探る。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>創世記25章（19節～）以下のヤコブ・エサウ物語を代表的ベン・アシェル写本であるレニングラード写本（L）で読み、ユダヤ教聖書学の結晶であるマソラとヒブル語本文の諸現象を学びテキスト理解を深めたい。構文及び本文批判、伝承史等積義的諸方法も検討し、諸訳を参照しつつ積義する。後期課程「旧約聖書原典積義I a」と合同。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語文法修得者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：創世記25：19－23 リベカの妊娠と託宣 第2回：創世記25：24－28 エサウとヤコブの誕生 第3回：創世記25：29－34 長子の権利 第4回：創世記27：1－7 父の祝福計画 第5回：創世記27：8－13 母の計略 第6回：創世記27：14－20 計略の実行 第7回：創世記27：21－26 ” 第8回：創世記27：27－29 奪われた祝福 第9回：創世記27：30－36 エサウの嘆き 第10回：創世記27：37－40 エサウの運命 第11回：創世記27：41－46 母の恐れ 第12回：創世記28：1－9 ヤコブの逃亡 第13回：創世記28：10－15 天からの階段 第14回：創世記28：16－19 ベテル命名（1） 第15回：創世記28：20－22 ヤコブの誓願</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本（Codex Leningradensis）、アレppo写本（Codex Aleppo）写真版。辞書は Gesenius、BDB 或いは HALOT（HALAT）。</p>	
<p><参考書></p> <p>「ヒブル語入門」12. 補説：本文の諸現象（補注一覧）（改訂増補版 左近／本間）、「旧約聖書の本文研究」（E. ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）、Leitfaden zur Biblia Hebraica(R.Wonneberger), A simplified guide to BHS(H.P.Rueger), Massorah Gedolah - iuxta Codicem Leningradensem(ed. G.E.Weil)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>討議及び、写本とマソラ本文の課題に関するレポートによって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
旧約聖書原典特殊研究 b	本間 敏雄
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>旧約聖書原典である写本とマソラ本文、特にマソラの専門的知識を修得し、ユダヤ教正典（Miqra）としての本文と諸現象の理解を深め、テキストの神学と聖書学的解釈の地平を展望する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>創世記32章以下のヤコブ・エサウ物語と37章のヨセフ物語を代表的ベン・アシェル写本であるレニングラード写本（L）写本で読み、ユダヤ教聖書学の結晶であるマソラとヒブル語本文の諸現象を学びテキスト理解を深めたい。構文及び本文批判、伝承史等積義的諸方法も検討し、諸訳を参照しつつ積義する。後期課程「旧約聖書原典積義 I b」と合同。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ヒブル語文法修得者</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：創世記32：1－7 帰郷の旅 第2回：創世記32：8－13 恐れと祈り 第3回：創世記32：14－22 再会の準備 第4回：創世記32：23－29 ヤボクの渡し、ヤコブの改名（1） 第5回：創世記32：30－33 ペヌエル 第6回：創世記35：1－8 一家のきよめ、エル・ベテル 第7回：創世記35：9－15 ヤコブの改名（2）、ベテル命名（2） 第8回：創世記35：16－22a ラケルの死 第9回：創世記35：22b－29 イサクの死 第10回：創世記37：1－8 ヨセフの夢 第11回：創世記37：9－11 〃 第12回：創世記37：12－17 シケムのヨセフ 第13回：創世記37：18－24 兄弟たちの計略 第14回：創世記37：25－30 売られたヨセフ 第15回：創世記37：31－36 父の悲嘆</p>	
<p><準備学習等の指示></p>	
<p><テキスト></p> <p>Biblia Hebraica Stuttgartensia(BHS)、レニングラード写本（Codex Leningradensis）、アレppo写本（Codex Aleppo）写真版。辞書は Gesenius、BDB 或いは HALOT（HALAT）。</p>	
<p><参考書></p> <p>「ヒブル語入門」12. 補説：本文の諸現象（補注一覧）（改訂増補版 左近／本間）、「旧約聖書の本文研究」（E. ヴェルトヴァイン 鍋谷／本間共訳）、Leitfaden zur Biblia Hebraica(R.Wonneberger), A simplified guide to BHS(H.P.Rueger), Massorah Gedolah - iuxta Codicem Leningradensem(ed. G.E.Weil)</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>討議及び、写本とマソラ本文の課題に関するレポートによって評価する。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
聖書語学特殊研究 a	佐藤 泉
前期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の古代訳の一つであるペシッタ（シリア語訳）を読むことは、聖書の原典との比較によって、聖書解釈に大きな意味を持って来る。この授業ではペシッタを読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> ペシッタを読むために必要なシリア語の文法を学ぶ。</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画> 第1回：序 シリア語を学ぶ意義等話し、子音について（1）ヤコブ派の書体を学ぶ。 第2回：子音について（2） ネストリウス派とエストラングラの書体を学ぶ。 第3回：母音について ヤコブ派とネストリウス派の母音記号を学ぶ。 第4回：代名詞について 人称・指示・疑問・関係代名詞を学ぶ。 第5回：前置詞について 基本的なものをいくつか学ぶ。 第6回：名詞について（1） 基本的な名詞について、ヘブライ語との比較をしつつ、その特徴を学ぶ。 第7回：代名詞語尾について ヘブライ語と同様にシリア語も名詞等に代名詞語尾がつくことを学ぶ。 第8回：名詞について（2） 母音の移動を伴うものを学ぶ。 第9回：名詞について（3） 不規則変化するものを学ぶ。 第10回：規則動詞について（1） Peal 形の変化、特に完了を学ぶ。 第11回：規則動詞について（2） Peal 形の変化、特に未完了・命令・分詞・不定詞を学ぶ。 第12回：規則動詞について（3） Ethpeel 形の変化を学ぶ。 第13回：規則動詞について（4） Pael 形と Ethpael 形の変化を学ぶ。 第14回：規則動詞について（5） Aphel 形と Ettaphal 形の変化を学ぶ。 第15回：規則動詞について（6） 代名詞語尾のついた形の変化を学ぶ。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd. ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況、ペシッタのテキストの中から指定された箇所に関する発表によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・旧約聖書神学関係	
聖書語学特殊研究 b	佐藤 泉
後期・2単位	<登録条件> 通年で履修するのが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 聖書の古代訳の一つであるペシッタ（シリア語訳）を読むことは、聖書の原典との比較によって、聖書解釈に大きな意味を持って来る。この授業ではペシッタを読むことを目標としている。</p>	
<p><授業の概要> シリア語の文法の学びを継続する。その後に講読に入るが、まず新約からマタイによる福音書の「山上の説教」、さらに旧約からエレミヤ書等をペシッタで読む。（箇所は未定。授業中に指示する。）</p>	
<p><履修条件> ヒブル語履修済みであること並びに聖書語学特殊研究 a（シリア語）履修済みであることが望ましい。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：不規則動詞について（1） Pê Nun 動詞の変化を学ぶ。 第2回：不規則動詞について（2） Lāmed 喉音動詞の変化を学ぶ。 第3回：不規則動詞について（3） Pê 'alep 動詞の変化を学ぶ。 第4回：不規則動詞について（4） Pê Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第5回：不規則動詞について（5） 二根字動詞の変化を学ぶ。 第6回：不規則動詞について（6） 二重'ayin 動詞の変化を学ぶ。 第7回：不規則動詞について（7） Lāmed Hê・Lāmed Yôd 動詞の変化を学ぶ。 第8回：「山上の説教」の講読（1） Jennings の辞書を引きながら、ペシッタを読むことに慣れる。 第9回：「山上の説教」の講読（2） 原典との比較をしつつ読むことを味わう。 第10回：「山上の説教」の講読（3） シリア語文法、特に不規則変化する名詞を確認しつつ読む。 第11回：「山上の説教」の講読（4） シリア語文法、特に動詞の変化を確認しつつ読む。 第12回：「山上の説教」の講読（5） シリア語が解釈に影響を与えている一例について話す。 第13回：エレミヤ等の講読（1） ネストリウス派の書体・母音記号で読むことに慣れる。 第14回：エレミヤ等の講読（2） シリア語文法を全体的に思い出しつつ読む。 第15回：エレミヤ等の講読（3） 原典や七十人訳と比較しつつ読むことを味わう。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業中に指示のあった練習問題等について、できる範囲で準備すること。</p>	
<p><テキスト> Theodore H. Robinson, Paradigms and Exercises in Syriac Grammar, 3rd. ed., Oxford University Press, London, 1949.</p>	
<p><参考書> William Jennings, Lexicon to the Syriac New Testament, Oxford at the Clarendon Press, 1926.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 予習・復習、積極的な授業参加の状況、ペシッタのテキストの中から指定された箇所に関する発表によって成績をつける。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書神学特殊研究 a	焼山 満里子
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> 使徒パウロの伝道活動とパウロ教会について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> テキストを講読、批判検討しながら、パウロ書簡、初期キリスト教の形成について学ぶ。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. ミークス序論 3. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 33-64頁 4. ミークス第一章 「パウロ的キリスト教の都市環境」 65-112頁 5. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 144-168頁 6. ミークス第二章 「パウロ教会の会員達の社会層」 169-190頁 7. ミークス第三章 「教会の形成」 205-246頁 8. ミークス第三章 「教会の形成」 247-280頁 9. ミークスの方法論の検討 10. ミークス第四章 「統治」 301-334頁 11. ミークス第四章 「統治」 335-360頁 12. ミークス第五章 「祭儀」 370-413頁 13. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 423-450頁 14. ミークス第六章 「信仰形態と生活形態」 451-471頁 15. 総括 受講者の関心により予定は適宜調整する。 	
<p><準備学習等の指示> 各自、テキストを分担し講読を行う。各回発表担当者は議論の紹介をし、受講者と共に批判検討を行う。</p>	
<p><テキスト>ウェイン・ミークス『古代都市のキリスト教』加山久夫監訳 ヨルダン社、1989年。現在、絶版なので古本等の入手、図書館所蔵のものを使うことを勧める。</p>	
<p><参考書>適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表、議論への貢献等による授業参加、博士後期の学生は中間と期末レポート。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書神学特殊研究 b	焼山 満里子
後期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> テサロニケの信徒への手紙一、二積義を通して初期キリスト教の形成、パウロ伝道について学ぶ。</p>	
<p><授業の概要> テサロニケの信徒への手紙一、二の積義。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テサロニケの信徒への手紙一、概説 2. テサロニケの信徒への手紙一、1章 3. テサロニケの信徒への手紙一、2章 4. テサロニケの信徒への手紙一、3章 5. テサロニケの信徒への手紙一、4章 6. テサロニケの信徒への手紙一、5章 7. テサロニケの信徒への手紙一、総括 8. テサロニケの信徒への手紙二、概説 9. テサロニケの信徒への手紙二、1章 10. テサロニケの信徒への手紙二、2章 11. テサロニケの信徒への手紙二、3章 12. テサロニケの信徒への手紙二、総括 13. テサロニケの信徒への手紙一、二 終末論 14. テサロニケの信徒への手紙一、二 レトリック 15. 総括 	
<p><準備学習等の指示> 担当する箇所を G.フィー『新約聖書の積義』に従って積義し、発表、検討し合う。</p>	
<p><テキスト>適宜紹介する。</p>	
<p><参考書>適宜紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表、議論への貢献等による授業参加、博士後期の学生は積義レポートとテサロニケ一、二比較レポート。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典特殊研究 a	遠藤 勝信
前期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ヨハネの福音書4～6章の原典釈義。研究史、釈義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に釈義し、神学的考察へと向かう。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>はじめに、近年のヨハネ福音書研究の動向(研究史、方法論)を概観し、釈義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。釈義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。</p>	
<p><履修条件></p> <p>新約ギリシア語原典テキスト読解力(ギリシア語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。</p>	
<p><授業計画></p> <p>I. 講義を中心に</p> <p>第01回 研究史を概観し、近年の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第02回 ギリシア語新約聖書本文批評の実際。</p> <p>第03回 テキストの文学批評の実際。</p> <p>第04回 テキストと歴史批評の実際。</p> <p>II. 演習(参加者による釈義の発表とディスカッション)を中心に</p> <p>第05回 ヨハネ4:43～54(役人の息子の癒し)の原典釈義</p> <p>第06回 ヨハネ5:01～09(ベトザタの池での病人の癒し)の原典釈義</p> <p>第07回 ヨハネ5:09～18(安息日論争)の原典釈義</p> <p>第08回 ヨハネ5:19～30(御子の権威)の原典釈義</p> <p>第09回 ヨハネ5:31～40(イエスについての証言ーその1)の原典釈義</p> <p>第10回 ヨハネ5:41～47(イエスについての証言ーその2)の原典釈義</p> <p>第11回 ヨハネ6:01～15(パンのしるし)の原典釈義</p> <p>第12回 ヨハネ6:16～21(湖上歩行)の原典釈義</p> <p>第13回 ヨハネ6:22～33(いのちのパンーその1)の原典釈義</p> <p>第14回 ヨハネ6:34～40(いのちのパンーその2)の原典釈義</p> <p>III. 総括</p> <p>第15回 釈義演習の総括的な反省と展望。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland (28th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i></p>	
<p><参考書></p> <p>R・ブルトマン著、杉原助訳『ヨハネの福音書』、2005年</p> <p>R・A・カルペッパー著、伊東寿泰訳『ヨハネ福音書文学的解剖』2005年</p> <p>R・ボウカム、浅野淳博訳『イエスとその目撃者たち』2011年</p> <p>C.S. Keener, <i>The Gospel of John- A Commentary vol.1</i>, 2003.</p> <p>M. Endo, <i>Creation and Christology - A Study on the Johannine Prologue</i> (WUNT), 2002. 他、クラスで随時紹介。</p>	
<p><学生に対する評価(方法・基準)></p> <p>授業における発表と期末試験(指定されたテキストについての釈義論文[8,000～10,000文字])。評価には、クラスへの積極的な参加と貢献度を加味する。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
新約聖書原典特殊研究 b	遠藤 勝信
後期・2単位	<登録条件>原則として通年(a, b)で登録すること。但し、学期毎履修学生にも対応する。
<授業の到達目標及びテーマ> ヨハネの黙示録6～11章の原典積義。研究史、積義の方法論を踏まえつつ、テキストと真摯に向き合う。テキストの文学性、及び歴史との関連性を意識しつつ丁寧に積義し、神学的考察へと向かう。	
<授業の概要> 近年の黙示録研究の動向(研究史、方法論)を概観し、積義上の問題及び観点を確認する。その後、参加者による発表とディスカッション。積義の正確さと共に、慎重な議論の仕方、神学的掘り下げについて学び合う。	
<履修条件> 新約ギリシャ語原典テキスト読解力(ギリシャ語中級文法の知識があることが望ましい)を有すること。	
<授業計画> I. 講義を中心に 第01回 イントロダクション。黙示録の文学ジャンル。 第02回 黙示録を読む前に(その1): 黙示録の周辺、背景理解。 第03回 黙示録を読む前に(その2): 構造と構成、神学、他。 第04回 黙示録1～5章までを概観し、積義の営みにおける課題と観点を確認する。 II. 演習(参加者による発表とディスカッション)を中心に 第05回 黙示録06:01～08(七つの封印ーその1)の原典積義 第06回 黙示録06:09～17(七つの封印ーその2)の原典積義 第07回 黙示録07:01～08(刻印を押されたイスラエルの民)の原典積義 第08回 黙示録07:09～17(白い衣を着た大群衆)の原典積義 第09回 黙示録08:01～05(第七の封印の開封)の原典積義 第10回 黙示録08:06～13(七つのラッパーその1)の原典積義 第11回 黙示録09:01～12(七つのラッパーその2)の原典積義 第12回 黙示録09:13～21(七つのラッパーその3)の原典積義 第13回 黙示録10:01～11(預言者の務めーその1)の原典積義 第14回 黙示録11:01～14(預言者の務めーその2)の原典積義 III. 総括 第15回 積義演習の総括的な反省と展望。	
<準備学習等の指示> クラスで取り上げる箇所のギリシア語テキストを十分読み、準備してクラスに出席すること。	
<テキスト> Nestle-Aland (27 th or 28 th ed., 2012), <i>Novum Testamentum Graece</i>	
<参考書> 佐竹明著『ヨハネの黙示録』(上・中巻) 2009年 R・ボウカム著、飯郷友康・小河陽訳『ヨハネ黙示録の神学』2001年 R. Bauckham, <i>The Climax of Prophecy</i> , 1993. R. Bauckham, <i>The Jewish World Around the New Testament</i> , 2008. G. Beale, <i>The Book of Revelation (NIGTC)</i> , 1999. D. Aune, <i>Revelation 6-16 (WBC)</i> , 1997. 他、クラスで随時紹介。	
<学生に対する評価(方法・基準)> 授業における発表と期末試験(指定されたテキストについての積義論文[8,000～10,000文字])。評価には、クラスへの積極的な参加と貢献度を加味する。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
聖書解釈学特殊研究 a	中野 実
前期・2単位	<登録条件>特になし
<p><授業の到達目標及びテーマ> 新約聖書学、新約聖書神学における重要研究課題について学び、その理解を深めることがクラスの目標。今回は、テーマとしてヘブライ人への手紙を取り上げる。</p>	
<p><授業の概要> ヘブライ書の原典から日本語に翻訳するという課題について共に学んでみる。</p>	
<p><履修条件>通年で履修するのが原則。そうでない場合は、事前に担当者と相談すること。</p>	
<p><授業計画> 毎回、担当教員（中野）が用意したヘブライ書の日本語訳を吟味、検討するのがクラスの中身。毎回担当学生を決め、ギリシャ語原典およびいくつかの日本語訳を吟味しながら、翻訳を検討する役割を果たしてもらう。その際、より具体的には、本文批評上の問題、単元の区切りの問題、文法上の問題、内容的、神学的問題、日本語の問題などを検討する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション 2 ヘブライ書の緒論 著者問題 3 緒論 成立年代、成立地、宛先など 4 緒論 構成など 5 1 : 1-4 6 1 : 5-14 7 2 : 1-4 8 2 : 5-18 9 3 : 1-6 10 3 : 7-4 : 13 (a) 3 : 7-19 11 3 : 7-4 : 13 (b) 4 : 1-13 12 4 : 14-16 13 5 : 1-10 14 5 : 11-6 : 20 (a) 6 : 4-12 15 5 : 11-6 : 20 (b) 6 : 13-20 	
<p><準備学習等の指示> クラスにおいて指示する。</p>	
<p><テキスト> 旧、新約聖書（いくつかの翻訳）、ギリシャ語の新約聖書など。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて、担当者がクラスで指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）>クラスへの積極的参加（出席、発表、質問、コメントなど）を求める。出席、分担発表、参加度（40%）、および（8000～10000字の）期末レポート（60%）によって総合的に評価する。出席が三分の二に達しない場合は、原則として評価の対象にしない。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
聖書解釈学特殊研究 b	中野 実
後期・2単位	<登録条件>特になし
<授業の到達目標及びテーマ>前期の欄を参照	
<授業の概要>前期と同じ	
<履修条件>前期と同じ	
<p><授業計画>前期の項目を参照。</p> <p>1 7:1-28 (a) 7:1-10 2 7:1-28 (b) 7:20-28 3 8:1-13 (a) 8:1-6 4 8:1-13 (b) 8:7-13 5 9:1-28 (a) 9:1-10 6 9:1-28 (b) 9:23-28 7 10:1-18 8 10:19-39 9 11:1-40 (a) 11:1-7 10 11:1-40 (b) 11:32-40 11 12:1-29 (a) 12:1-13 12 12:1-29 (b) 12:25-29 13 13:1-21 (a) 13:1-6 14 13:1-21 (b) 13:7-19 15 13:22-25</p>	
<準備学習等の指示>必要に応じてクラスで指示する	
<テキスト>前期の項目を参照	
<参考書>必要に応じて担当者がクラスで指示する。	
<学生に対する評価(方法・基準)>出席、分担発表、参加度(40%)と(8000~10000字の)期末レポート(60%)によって総合的に評価する。ただし、出席が3分の2に達しない場合、原則として評価の対象にしない。	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
原始キリスト教特殊研究 a	小河 陽
前期・2単位	<登録条件>学期ごとに履修できるが、通年で受講することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>マルコ福音書本文の釈義を通して、ギリシア語原典釈義の方法の基本を学ぶ。本福音書全体の理解に資する幾つかのテキストに関して、具体的な釈義上の問題を学び、神学内容を吟味するように訓練する。また、この学習を通してマルコ福音書神学の特徴を掴んだ上で、比較しうる同時代資料の考察を通して、原始キリスト教神学史における本福音書の位置づけを試みる。さらに、個々のテキストの釈義から説教への展開の可能性も模索する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>始めにマルコ福音書の研究史を概観し、釈義上の諸問題を把握した上で、範例として幾つかのテキストを取りあげ、釈義の方法論について学ぶ。その後に福音書本文の釈義に移る。取り上げるテキストを幾つか限定し、その釈義に関連する資料の調査や研究書の検討を通して、神学的な問題点の把握と解釈の基本を確実にすることに努める。全体として、マルコ福音書神学の全体像を掴むことができるように試みる。参加者各々は分担箇所について発表の義務がある。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシア語の基礎知識を必要とするが、絶対条件とはしない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： マルコ福音書の研究史を概観して、現代の研究状況と釈義の諸問題を学ぶ。</p> <p>第2回： マルコ 1:21-28（汚れた霊に憑かれた男）で、範例的な釈義方法について学ぶ。</p> <p>第3回： マルコ 2:13-17（レビの召命）で、範例的なテキスト分析方法について学ぶ。</p> <p>第4回： マルコ 4：35-41（湖上の嵐を鎮める）で、範例的なテキスト分析の方法について学ぶ。</p> <p>第5回： マタイ 8：5-13 とルカ 7：1-10 の比較から、共観福音書間の相違を学ぶ。</p> <p>第6回： マルコ 1:1-8（洗礼者ヨハネ）を中心に釈義を行う。</p> <p>第7回： マルコ 1：16-20（弟子召命）を中心に釈義を行う。</p> <p>第8回： マルコ 1:40-45（らい患者の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第9回： マルコ 2:23-28（安息日論争）中心に釈義を行う。</p> <p>第10回： マルコ 3:20-35（バルゼブル論争とイエスの家族）を中心に釈義を行う。</p> <p>第11回： マルコ 4:1-20（種まきの譬え）を中心に釈義を行う。譬えの解釈の注意点を学ぶ</p> <p>第12回： マルコ 5:21-43（ヤイロの娘とイエスの服に触れる女）を中心に釈義を行う。</p> <p>第13回： マルコ 6:6b-13（弟子の宣教派遣）を中心に釈義を行う。</p> <p>第14回： マルコ 6:30-44（5000人の供食）を中心に釈義を行う。</p> <p>第15回： マルコ 7:1-23（昔の人の言い伝え）を中心に釈義を行う。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる原典テキストを熟読し、外国語文献も含んで、代表的な註解書などの文献に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 27th edition.</p>	
<p><参考書></p> <p>諸マルコ注解書、その他は授業の中でその都度教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスでの発表義務と学期末提出のレポートにおける習熟度の評価による。</p>	

聖書神学専攻・新約聖書神学関係	
原始キリスト教特殊研究 b	小河 陽
後期・2単位	<登録条件>学期ごとに履修できるが、通年で受講することが望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ></p> <p>ルカ福音書の研究史を概観し、釈義上の諸問題を把握した上で、個々のテキストに即して、釈義上の諸問題を学び、神学内容を吟味するよう訓練する。また、この学習を通してルカ福音書神学の特徴を掴んだ上で、比較しうる同時代資料の考察を通して、原始キリスト教神学史における本福音書の位置づけを試みる。さらに、釈義から説教への展開の可能性も模索する。</p>	
<p><授業の概要></p> <p>前期に引続き、ルカの福音書から若干のテキストを選び、具体的に釈義を行うことで、問題点の把握と解釈の基本を確実にすることと、ルカ神学の特徴を掴むことに努める。最初に簡単に、ルカ福音書の研究史の概観と釈義上の諸問題を学ぶ。個々のテキストに関して、関連する比較資料の考察、諸註解書・研究書の検討を行う。全体として、ルカ福音書神学の全体像を掴むことができるように試みる。参加者各々は分担箇所について発表の義務がある。</p>	
<p><履修条件></p> <p>ギリシア語の基礎知識を必要とするが、絶対条件とはしない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回： 前期に於ける釈義の問題と方法の要点を整理・復習する。</p> <p>第2回： ルカ福音書の研究史概観（歴史家、神学者としての著者ルカの評価）</p> <p>第3回： ルカ福音書の研究史概観（ルカの教会とその環境について）</p> <p>第4回： ルカ6：1－6（ナザレの会堂での説教）を中心に釈義を行う。</p> <p>第5回： ルカ5：1－11（漁師を弟子にする）を中心に釈義を行う。</p> <p>第6回： ルカ6：20－49（平地の説教）を中心に釈義を行う。</p> <p>第7回： ルカ7：1－7（百人隊長の僕の癒し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第8回： ルカ7：18－35（洗礼者ヨハネとイエス）を中心に釈義を行う。</p> <p>第9回： ルカ7：36－50（罪深い女の赦し）を中心に釈義を行う。</p> <p>第10回： ルカ9：1－6、10：1－12（弟子たちの宣教派遣）を中心に釈義を行う。</p> <p>第11回： ルカ9：18－27（受難予告）を中心に釈義を行う。</p> <p>第12回： ルカ9：28－43a（山上の変貌）を中心に釈義を行う。</p> <p>第13回： ルカ15:11-32(放蕩息子の譬え)を中心に釈義を行う。</p> <p>第14回： 受難と復活についての釈義的諸問題を取り上げる。</p> <p>第15回： 釈義の方法と可能性について、総括的な反省と展望をする。</p>	
<p><準備学習等の指示></p> <p>クラスで取り上げる原典テキストを熟読し、外国語文献も含んで、代表的な註解書などの文献に目を通しておくこと。</p>	
<p><テキスト></p> <p>Nestle-Aland, Novum Testamentum Graece, 27th edition.</p>	
<p><参考書></p> <p>ルカの諸註解書、その他は授業の中で、その都度教員が指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）></p> <p>クラスでの発表義務と学期末提出のレポートにおける習熟度の評価による。</p>	

聖書神学専攻	
博士論文指導演習聖書神学 a	各指導教授
前期・0単位	<登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者は、博士論文指導演習聖書神学 b と通年で登録すること。
<授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。	
<授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。	
<履修条件> 2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者。	
<授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）>	

聖書神学専攻	
博士論文指導演習聖書神学 b	各指導教授
後期・0単位	<登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者は、博士論文指導演習聖書神学 a と通年で登録すること。
<授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。	
<授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。	
<履修条件> 2011 年度以降博士課程後期課程に入学した聖書神学専攻者。	
<授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）>	

組織神学専攻・組織神学関係	
教義学特殊研究 a	近藤 勝彦
前期・2単位	<登録条件>
<p><授業の到達目標及びテーマ> テーマは「救済史の思想史と学説史」、キリスト教的な歴史理解としての救済史の理解を正確にする。</p>	
<p><授業の概要> 「救済史」を聖書と古代教会における成立、また近代における解消に即して辿り、19世紀以来の学説史を検討する。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画> 第一回、授業概略の説明 第二回、聖書における救済史の萌芽、旧約聖書、フォン・ラートの主張 第三回、新約聖書における救済史の萌芽、パウロ、ルカ文書、ヨハネなどについて 第四回、特にケーゼマンのパウロ研究における「救済史と終末論」 第五回、古代教会における救済史思想の成立、弁証家たちのキリスト教的歴史理解 第六回、エイレナイオスの救済史観 第七回、救済史の近代歴史哲学への解消、レーヴィトなどの理解、歴史の主体について 第八回、救済史概念の出現—ヨハン・クリスティアン・コンラート・ホフマン 第九回、救済史をめぐる諸議論について、① エルンスト・トレルチの歴史的神学 第十回、② カール・バルトの救済史批判、a. 終末論による救済史の解消 b.キリスト論による救済史の解消 第十一回、③ オスカー・クルマンの救済史の理解 第十二回、④ ルドルフ・ブルトマンの救済史の批判 第十三回、救済史をめぐる現代の課題、マルティン・ヘンゲル、クリストーフ・シュベール等の意見も参照しつつ 第十四回、救済史と世界史の関係 第十五回、まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義の中のいずれかに特に興味を持って、理解を深めることに努めるように。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> オスカー・クルマン『キリストと時』（前田護郎訳、岩波）、その他その都度支持する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 講義の中で触れたもののうちから、さらに文献と取り組んでレポート（6000～7000字）を提出すること。興味を持って取り組む姿勢を示すこと。授業参加とレポートの内容によって評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
教義学特殊研究 b	近藤 勝彦
後期・2単位	<登録条件>学期ごとの履修も可
<p><授業の到達目標及びテーマ> テーマは「終末論の諸問題」で、終末論の理解を深めることを目標とする。</p>	
<p><授業の概要> 終末論の変遷史、そしてその喪失を踏まえて、終末論の回復を図り、死と復活、キリストの再臨と最後の審判、神の国の完成と歴史の終りなど、終末論の諸問題の理解を深める。</p>	
<p><履修条件></p>	
<p><授業計画></p> <p>第一回、終末論の思想史的概観 第二回、近代における終末論の解消と 19 世紀の再発見 第三回、各論としての終末論の回復、カール・バルトの初期の問題 第四回、バルトの後期のキリスト論的終末論の問題 第五回、終末論における世界の回復、ルドルフ・ブルトマンの実存論的終末論の問題 第六回、終末論の時間論、時間の終りは時間の中に来る、永遠と時間の始原と終末 第七回、モルトマンの時間論の問題点 第八回、千年王国について、プレミレニアリズムとポストミレニアリズム 第九回、死と復活（個人的終末論） 第十回、キリストの再臨と最後の審判 第十一回、付論として内村鑑三の再臨運動について 第十二回、神の国のまったき到来（教会の完成と人間社会の完成） 第十三回、宇宙的終末論の可能性（新しい天、新しい地） 第十四回、完成におけるキリストと聖霊 第十五回、まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 講義の中から、それぞれに関心を絞って、理解を深めるようにしてもらいたい。</p>	
<p><テキスト></p>	
<p><参考書> ユルゲン・モルトマン『神の到来』（蓮見和男訳、教文館）など、その都度指示する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 関心を持って授業に参加することと、特定なテーマを選び、文献と取り組んでレポート（6000～7000 字）を書くことで評価する。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代神学特殊研究 a	芳賀 力
前期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 前期は A.E.マクグラスの『「自然」を神学する ― キリスト教自然神学の新展開』をテキストとして、新しい自然神学の可能性を探る意欲的な試みを検討・吟味する。</p>	
<p><授業の概要> 最初の2回はオリエンテーション的な意味で、主題に関する問題を整理する。その後担当者を決め、順番に内容を要約し、コメントしてもらい、討論する。</p>	
<p><履修条件> 聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：パルトとブルンナーのイマゴ・デイ論争を通して自然神学の問題点を整理する。</p> <p>第2回：信仰と自然科学とのあるべき関係を整理する。</p> <p>第3回：テキスト第1章の内容を検討する。</p> <p>第4回：テキスト第2章の内容を検討する。</p> <p>第5回：テキスト第3章の内容を検討する。</p> <p>第6回：テキスト第4章の内容を検討する。</p> <p>第7回：テキスト第5章の内容を検討する。</p> <p>第8回：テキスト第6章の内容を検討する。</p> <p>第9回：テキスト第7章の内容を検討する。</p> <p>第10回：テキスト第8章1節から6節までの内容を検討する。</p> <p>第11回：テキスト第8章7節から第9章の内容を検討する。</p> <p>第12回：テキスト第10章の内容を検討する。</p> <p>第13回：テキスト第11章の内容を検討する。</p> <p>第14回：テキスト第12章の内容を検討する。</p> <p>第15回：これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前もってテキストをよく読んでくること。</p>	
<p><テキスト> A.E.マクグラス『「自然」を神学する ― キリスト教自然神学の新展開』教文館、2011年。各自購入すること。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に関連テーマで小論文を作成し、提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代神学特殊研究 b	芳賀 力
後期・2単位	<登録条件> 通年(a, b)の登録が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 後期は創造論をめぐる様々なテーマを個別に取り上げ、順番に考察してゆく。各論的考察を積み重ねて、創造論の全体を網羅することが期待される。</p>	
<p><授業の概要> こちらでペーパーを用意し、解説する。それに基づいて意見を出し合い、神学的理解を深める。</p>	
<p><履修条件> 聖書神学専攻でもかまわない。</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回：自然の読解法について考える。</p> <p>第2回：自然の非神話化について考える。</p> <p>第3回：世界観としてのグノーシス・シンドロームについて考える。</p> <p>第4回：自然科学の説明をいかに越えるかを考える。</p> <p>第5回：開かれた創造と進化論について考える。</p> <p>第6回：創造の根拠について考える。</p> <p>第7回：創造とキリスト論について考える。</p> <p>第8回：創造と聖霊論について考える。</p> <p>第9回：一般恩恵と特別恩恵について考える。</p> <p>第10回：神の像としての人間について考える。</p> <p>第11回：関係の中の人間について考える（1）。</p> <p>第12回：関係の中の人間について考える（2）。</p> <p>第13回：自然の中の人間について考える。</p> <p>第14回：創造と神義論的問いについて考える。</p> <p>第15回：これまでの議論を振り返り、総括する。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前の週にテキストが指示された場合には、その箇所を図書館で各自コピーし目を通しておくことが望ましい。</p>	
<p><テキスト> 季刊『教会』（QK）の諸論文。授業の中で指示する。</p>	
<p><参考書> 必要に応じて授業の中で紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 学期末に関連テーマで小論文を作成し、提出してもらう。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代哲学特殊研究 a	神代 真砂実
前期・2単位	<登録条件>現代哲学特殊研究 b との通年の履修（登録）が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> 後期課程レベルの組織神学的思考力の育成</p>	
<p><授業の概要> カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読。今年度は創造論中の人間論。</p>	
<p><履修条件> (特になし)</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション、およびバルトの思想の概要の紹介</p> <p>第2回 ①イエス、時間の主（その1）：テキスト 3～25 頁</p> <p>第3回 同（その2）：テキスト 25～41 頁</p> <p>第4回 同（その3）：テキスト 41～57 頁</p> <p>第5回 同（その4）：テキスト 57～82 頁</p> <p>第6回 同（その5）：テキスト 82～105 頁</p> <p>第7回 同（その6）：テキスト 105～123 頁</p> <p>第8回 同（その7）：テキスト 123～146 頁</p> <p>第9回 同（その8）：テキスト 146～160 頁</p> <p>第10回 ②与えられた時間（その1）：テキスト 161～181 頁</p> <p>第11回 同（その2）：テキスト 181～197 頁</p> <p>第12回 同（その3）：テキスト 197～211 頁</p> <p>第13回 同（その4）：テキスト 211～232 頁</p> <p>第14回 同（その5）：テキスト 232～249 頁</p> <p>第15回 同（その6）：テキスト 249～265 頁</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅱ／3』、菅田吉・吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表およびレポート（8,000 字程度）による。レポートの作成にあたっては、担当教員の指導を受けること。</p>	

組織神学専攻・組織神学関係	
現代哲学特殊研究 b	神代 真砂実
後期・2単位	<登録条件>現代哲学特殊研究 b との通年の履修（登録）が望ましい
<p><授業の到達目標及びテーマ> 後期課程レベルの組織神学的思考力の育成</p>	
<p><授業の概要> カール・バルトの『教会教義学』の演習形式による精読。今年度は創造論中の人間論。</p>	
<p><履修条件> (特になし)</p>	
<p><授業計画></p> <p>第1回 オリエンテーション</p> <p>③限られた時間（その1）：テキスト 266～280 頁</p> <p>第2回 同（その2）：テキスト 280～296 頁</p> <p>第3回 同（その3）：テキスト 296～310 頁</p> <p>第4回 ④始まる時間（その1）：テキスト 311～325 頁</p> <p>第5回 同（その2）：テキスト 325～331 頁</p> <p>第6回 同（その3）：テキスト 331～343 頁</p> <p>第7回 ⑤終わる時間（その1）：テキスト 344～358 頁</p> <p>第8回 同（その2）：テキスト 358～369 頁</p> <p>第9回 同（その3）：テキスト 369～388 頁</p> <p>第10回 同（その4）：テキスト 388～409 頁</p> <p>第11回 同（その5）：テキスト 409～418 頁</p> <p>第12回 同（その6）：テキスト 418～428 頁</p> <p>第13回 同（その7）：テキスト 429～448 頁</p> <p>第14回 同（その8）：テキスト 448～462 頁</p> <p>第15回 まとめ</p>	
<p><準備学習等の指示> 必ず事前にテキストを読み、質問やコメントを用意してくること。</p>	
<p><テキスト> カール・バルト、『教会教義学・創造論Ⅱ／3』、菅岡吉・吉永正義訳（新教出版社、オンデマンド）。</p>	
<p><参考書> 授業の中で、必要に応じて紹介する。</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 発表およびレポート（8,000 字程度）による。レポートの作成にあたっては、担当教員の指導を受けること。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
神学史特殊研究 a	棚村 重行
前期・2単位	<登録条件> 通年の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「キリスト教霊的生活史」。「宗教としてのキリスト教」を構成する宗教経験、教理神学、実践、共同体などの諸側面を総合して「霊的生活」と呼び、教会史におけるその発展を歴史的に考察する。</p>	
<p><授業の概要> 前期では、聖書成立時代から中世末期までの霊的神学者の a)「三一神の像、似像」としての人間の創造、墮罪、回復の救済史観、b) 礼拝と祈り、とくに祈りに焦点をあて講義し、配布テキストを読む。</p>	
<p><履修条件> 霊的生活思想形成における聖書釈義の役割も重視するので、組織専攻者（組織、歴史、実践）のみならず、聖書神学専攻者の参加も歓迎する。</p>	
<p><授業計画> 第1回：参加者の目標と関心の共有。コースの紹介と導入講義「霊的生活と霊性とは何か？」 第2回：講義：聖書正典における「神の像、似像」としての人間と救済史観（新共同訳聖書） 第3回：発表（一）：新約聖書における礼拝：O.クルマン『原始キリスト教と礼拝』から 第4回：発表（二）：新約聖書における「祈り」：O.クルマン『新約聖書における祈り』から 第5回：史料分析（一）：古代東方教会：オリゲネスの神の像と救済史観、礼拝と祈り 第6回：史料分析（二）：古代東方教会：アタナシオスの神の像と救済史観、礼拝と祈り 第7回：史料分析（三）：古代西方教会：アウグスティヌス：神の像と救済史観、礼拝と祈り観 第8回：史料分析（四）：古代末期～初期中世教会：ヌルシアのベネディクトゥス：修道制の理念 第9回：史料分析（五）：盛期中世教会：カンタベリーのアンセルムス：礼拝と祈り、神の像と救済史観 第10回：史料分析（六）：盛期中世教会：クレルヴォーのベルナルドゥス：神の像と救済史観、礼拝と祈り 第11回：史料分析（七）：盛期中世教会：サン・ヴィクトールのリカルドゥス：神の像と救済史、祈り 第12回：史料分析（八）：盛期中世教会：アッシジのフランチェスコ、ボナヴェントゥーラ：神の像と救済史観、礼拝と祈り 第13回：史料分析（九）：盛期中世教会：トマス・アキナス：神の像と救済史観、礼拝と祈り 第14回：史料分析（十）：後期中世教会：ヨハネス・タウラー：神の像と救済史観、礼拝と祈り 第15回：前期のまとめと総合討論。</p>	
<p><準備学習等の指示> 授業の中で指示する。原則として、予習よりも復習を重視せよ。</p>	
<p><テキスト> O.クルマン『新約聖書における祈り』、教文館、1999（現在書店で購入可能）。同『原始キリスト教と礼拝』（コピー・テキスト）。その他の授業に関する多くの史料は、授業毎にコピー・テキストの形で配布する。</p>	
<p><参考書> J. マッコリー『礼拝と祈りの本質－新たな霊性の探求』（ヨルダン社）。D.F. Ford, <i>Self and Salvation</i>, Cambridge, 1999.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 平生の授業と討論に積極的に参加する。また学期末には、以下の要件をみたす研究レポートを作成し提出する。分量は400字詰め原稿用紙で30～35枚以内。 2. レポートの内容は次の通り。a) 興味を持つ二人の人物ないし運動を選び、彼らの二次史料を読み、時代背景を調べよ。b) また彼らの第一次史料を精読し、比較して分析し、自分なりの解釈と評価を与えたレポートとせよ。</p>	

組織神学専攻・歴史神学関係	
神学史特殊研究 b	棚村 重行
後期・2単位	<登録条件> 通年の履修が望ましい。
<p><授業の到達目標及びテーマ> 「キリスト教霊的生活史」。「宗教としてのキリスト教」を構成する宗教経験、教理神学、実践、共同体などの諸側面を総合して「霊的生活」と呼び、教会史におけるその発展を歴史的に考察する。</p>	
<p><授業の概要> 後期では、宗教改革時代から現代までの霊的神学者の a) 「三一神の像、似像」としての人間の創造、墮罪、回復の救済史観、b) 礼拝と祈り、とくに祈りに焦点をあて講義し、配布テキストを読む。</p>	
<p><履修条件> 前期に同じ。</p>	
<p><授業計画> 第1回：コースの紹介。参加者の目標や関心を共有する話し合い。 第2回：発表—P. T. フォーサイス『祈りの精神』の発表と討論 第3回：史料分析（一）：十六世紀ドイツ宗教改革（1）：M. ルターの神の像と救済史観 第4回：史料分析（二）：十六世紀ドイツ宗教改革（2）：M. ルターの神の礼拝と祈り観 第5回：史料分析（三）：十六世紀スイス宗教改革（1）：J. カルヴァンの神の像と救済史観 第6回：史料分析（四）：十六世紀スイス宗教改革（2）：J. カルヴァンの礼拝と祈り観 第7回：史料分析（五）：十六世紀対抗宗教改革：トレント公会議の救済観と I. ロヨラの『霊操』の祈り観 第8回：史料分析（六）：十七世紀ドイツ敬虔主義（1）：J. アルントの神の像と救済史観、礼拝と祈り 第9回：史料分析（七）：十八世紀ドイツ敬虔主義（2）：P. シュペーナーと A. フランケの救済観、祈り 第10回：史料分析（八）：十八世紀英国の敬虔主義：J. ウェスレーの神の像と救済史観、礼拝と祈り 第11回：史料分析（九）：十八～十九世紀米国の大覚醒運動：J. エドワーズと C. フィニーの救済観、祈り 第12回：史料分析（十）：十九世紀日本の霊的神学者：植村正久と逢坂元吉郎の救済観、礼拝と祈り 第13回：史料分析（十一）：二十世紀スイス神学：K. バルトの神の像と救済史観、祈りと神学 第14回：史料分析（十二）：二十世紀スイス神学：E. ブルンナーの神の像と救済史観、祈りと礼拝 第15回：史料分析（十三）：現代神学：ポスト・モダンの神学者の神の像と救済史観、祈り観、総合討論。</p>	
<p><準備学習等の指示> 前期に同じ。</p>	
<p><テキスト> すべての史料は、授業毎にコピー・テキストの形で配布する。</p>	
<p><参考書> P. T. フォーサイス『祈りの精神』、ヨルダン社、1978)。J. マッコリー『礼拝と祈りの本質—新たな霊性の探求』（ヨルダン社）。D. F. Ford, <i>Self and Salvation</i>, Cambridge, 1999.</p>	
<p><学生に対する評価（方法・基準）> 1. 平生の授業と討論に積極的に参加する。また学期末には、以下の要件をみたく研究レポートを作成し提出する。分量は400字詰め原稿用紙で30～35枚以内。 2. レポートの内容は次の通り。a) 興味を持つ二人の人物ないし運動を選び、彼らの二次史料を読み、時代背景を調べよ。b) 彼らの第一次史料を精読し、比較して分析し、自分なりの解釈と評価を与えたレポートとせよ。</p>	

組織神学専攻	
博士論文指導演習組織神学 a	各指導教授
前期・0単位	<登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者は、博士論文指導演習組織神学 b と通年で登録すること。
<授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。	
<授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。	
<履修条件> 2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者。	
<授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）>	

組織神学専攻	
博士論文指導演習組織神学 b	各指導教授
後期・0単位	<登録条件>2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者は、博士論文指導演習組織神学 a と通年で登録すること。
<授業の到達目標及びテーマ> 学生各自の研究課題に従い、文献の講読や討論などを通じて博士論文を作成する。	
<授業の概要> 各自の研究課題に沿って、諸文献の検討、論文のテーゼや構成・内容などについて指導教授と対話しつつ、博士論文の作成にあたる。	
<履修条件> 2011 年度以降博士課程後期課程に入学した組織神学専攻者。	
<授業計画> 各指導教授が年度初めに配付する「研究指導計画書」に拠る。	
<準備学習等の指示>	
<テキスト>	
<参考書>	
<学生に対する評価（方法・基準）>	